

総合計画審議会の意見概要

日時 : 平成27年9月1日(火) 午後2時～4時
場所 : 茨城県市町村会館 講堂
出席者 : 委員 33名ほか

1 総合計画全般について

- 基本理念は、夢を感じられると良い。茨城は、可能性がある県なのだから、何かで日本一になるというものがあると県民も誇りを持てるのではないかな。
- グローバル社会で世の中の変化が激しい時代。その変化に対応できる「たくましい茨城」になるための人材、企業を育て、強靱な社会づくりをするような挑戦的な視点を強く入れて欲しい。
- 言葉で美しく飾るのではなく、県が何をやってくれて、我々が何に協力しなければならないかということ、目で見えてわかるようにして欲しい。
- 各県総合計画は、どこも似たり寄ったり。茨城らしさをもっと明確にすべき。
- 部門別の計画がばらばらにならないように、総合計画が全体を傘で覆って、有機的につながるような形となることを望む。
- 人口減少問題について、まち・ひと・しごと総合戦略で検討している施策・取組を総合計画にも十分盛り込んで欲しい。
- 茨城は豊かなので危機感が不足している気がする。厳しい現実がそこまで来ていることも踏まえた、総合計画としていきたい。

2 人が輝くいばらきづくり関係

- 教育に関して大きく変化している時代。問題解決能力、情報を組み合わせて新しい何かを作り上げていく能力を高めることが重要になっている。
- 茨城で育てた子どもたちが、どこで活躍するのか。活躍して更に伸びていく環境や受け皿がなければ、外に出て行ってしまい、地域に残ってもらえない。

3 活力あるいばらきづくり関係

- 訪日客数が大きく伸びているので、この勢いを茨城に持ち込んで、産業の活性化に繋げられると良い。
- 圏央道の交通インフラの整備により、県南・県西地域は企業立地などが飛躍的に伸びている。これらの活力を県北や県全体に広めていただけるとありがたい。
- 情報ネットワークが進化して、第4次産業革命が始まっている。茨城県は、インダストリー4.0の先進県になれる県である。
- 「人が輝く元気で住みよい」の一番の基盤は、職の安定。高付加価値化という面もあるが、一番のボリュームゾーンは安くて品質が良いという部分。もう少し中小製造業に関する記載を増やしてほしい。
- まちの賑わいを提供してきた商店街の再生について、商工会議所だけでは、十分に対応できていない現状なので、「商業者の育成」について、もう少し施策で強く示して欲しい。
- 農業などの産業活性化のためには、外国人が働きやすい環境の整備が重要。
- 周辺で休耕田が多くなり荒れてしまっているので、そのことに対応した施策の充実が必要ではないか。

4 住みよいいばらきづくり関係

- 未婚化、晩婚化の原因として「働き方の問題」が大きい。県内企業が、女性や若者にとって働きやすいということを外に打ち出していくことが必要。福井県では、県内企業で活躍する女性社員が県内大学の就活の場に行って、県内にこういう働く場があると宣伝している。
- 医師会・行政・地元医療機関の連携で鹿行地域の日曜夜間救急が始まるなど、医療関係者の連携は進んできている。一方で、茨城では、有訴者率が低く、医療機関に行かない県民が多いので、県民の意識改革が必要。
- 医療費負担の軽減や健康長寿に向けて、ヘルスケア、病気になる前の予防措置が今後重要である。